

平成28年 8月市長定例記者会見

日 時：平成28年8月1日(月)午後1時30分～2時10分

場 所：小杉庁舎401会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、北日本放送、富山テレビ、射水CATV、庄東タイムス

当局出席者：市長、市長政策室長、行政管理部長、市長政策室次長、生涯学習・スポーツ課長、上下水道業務課長、港湾・観光課長、射水消防署副署長、新湊消防署副署長、学校教育課菅原課長補佐、まちづくり課長(司会)

質疑応答の概要

Q1. 斎場の建設について、先般沖塚原が候補地に浮上しているという報道があった。自治会は誘致の立場だが、一部の人は反対をしている状況と聞いている。市長はどのような考えか聞かせてほしい。

A1. 沖塚原の件について、地元から誘致の要請があった。これを受けて市でも慎重に検討をしてきた。沖塚原は地理的に優位な点が3点認められたことから適地とさせていただこうと考えている。まず市内にいくつかある葬儀場から考えるとだいたい中心に位置していることが1点目。2点目は国道8号や国道472号が整備されており、交通アクセスに優れている点である。新たに道路整備をせずとも幹線道路を経由することで集落道を使用することなく斎場へアクセスすることができる。また、住宅地が一定以上離れた場所で、斎場だけではなく公園や広場など一体的に整備できる立地条件であることから、優位な条件がそろっていると捉えている。ただ、誘致の反対看板が地元の反対の方によって建てられた。沖塚原自治会の中で、市が正式に誘致という要請を受けるまでにいろいろ経緯があったということは聞いている。これについてはあくまでも自治会の中での話だと思っているので、私からのコメントは控えさせていただきたい。ただ、反対の方を含めて今後丁寧に誠意をもって説明をさせていただきながら、ご理解いただけるように努力をしていきたい。今後説明会を開催し一定の理解を得ることができれば、市と自治会で基本合意書を交わすことになる。まずは基本合意書の協定、締結を目指し、反対の方々も含めて一定の理解を得ることができるよう丁寧に説明に努めたい。(市長)

- Q2. 小杉庁舎利活用について、小杉地域の交流拠点を考える会が庁舎前で活動を行っていたが、市長の率直な思いを聞かせてほしい。また、8月中旬以降に優先事業者の決定や基本協定の締結の予定だが、スケジュールに何か変更があれば教えてほしい。
- A2. 小杉庁舎跡地の利活用については、先般プロポーザルでの申請を締め切らせていただき、申請の内容について選考を行っている段階である。今後選考委員会での最終的な意見をいただきながらどうするかということになるので、選考委員会の選考の内容をしっかりと見守っていきたいと考えている。庁舎跡地の利活用については、売ったり貸したりせずに市で保有し交流施設にしてほしいという思いがある方がいるのも認識をしているが、提案のあったプロポーザルの内容を選考委員会で検討していただきながら、地域のニーズに合ったものがあるのかどうかを含め、地域の声も意識しつつより良いものになるように考えている。
- 市が保有する財産について、民間の活用などまちづくりにとってよりよいと考えられるものについては積極的に展開し、市の財政的な負担を軽減することやよりよいまちづくりにつなげていきたい。今後については説明の機会を設けるなど誠意をもって取り組んでいきたい。(市長)
- Q2-2. プロポーザルの申込みは何件あったのか。またその事業者はどこか。
- A2-2. 選考中のため名前は控えるが、1件の申請があった。(市長)
- Q2-3. 方針としては売却か、貸す方向なのか。
- A2-3. 今後検討していく事項の一つになっている。細部を詰めていく中で、協議していくことになる。(市長)
- Q2-4. 1件の申請だったということで、評価基準に満たなかった場合はどうするのか。
- A2-4. 万が一基準に合致しなかった場合は、今後については改めて考えていくことになるのか、今のところ、仮にということでは答えにくい。今後選考委員会の選考内容を見守っていきたい。(市長)